

## ■はじめに

皆さんは神様に「捧げる」「従う」「献身」というと、どんなイメージがあるでしょうか？犠牲、清貧、艱難、難行苦行という言葉がイメージする方もおられるのではないのでしょうか。神様に従うと大変なのではないかと思うかもしれません。しかし、本当にそうでしょうか。本日は神様に捧げることはとほどういことなのか、聖書から探っていきたいと思います。

## ■ルカの福音書22章31～34節

### 《1. イエス様の弟子たちはどのように従っていたのか》

この箇所はイエス様が十字架に架かる前に、弟子たちと食事をともにされた場面です。この時、イエス様は弟子たちに愛の限りを尽くされました。イエス様がほんとうに大切に思われていた最後の晩餐の時です。イエス様は弟子たちへ、パンを裂いてわたし、葡萄酒をいれた杯もわたしてあげました。「これは私があなたがたのために裂く体である。また、これはあなたがたの罪のために流す私の血である。」イエス様は自分が十字架に架かって本当にかたがたを裂き、血を流す。このことを思いながらそうされたのです。しかし、弟子たちはイエス様が語られた意味が分かっていませんでした。弟子たちは『自分たちのうちでだれが一番偉いのだろうか、という議論をしていたのです。そんな弟子たちにイエス様は、この後、ペテロが試練にあうことを預言されました。ルカにはこうあります。

「シモン、シモン、見なさい。サタンがあなたがたを麦のようにふるいにかけることを願って聴き届けられました。しかし、わたしはあなたのために、あなたの信仰がなくならないように祈りました。ですから、あなたは立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりなさい。」

ペテロにあなたはふるいにかえられる(=試練にあう)と言われました。それを聞いたペテロは答えます。「主よ。あなたとご一緒なら、牢であろうと、死であろうと、覚悟はできております。」と勇ましく答えます。ペテロは自分こそが一番弟子だと自負していたので、死ぬ覚悟ができていますとまで言ったのです。ペテロは熱い思いでイエス様に絶対従います。自分こそがイエス様の弟子なんだ。絶対裏切ることなどないという。ペテロの気負いを感じられます。私たちがそういうところがないでしょうか。今年こそこの目標を達成させる。今度は絶対失敗しない。任されたのだからしっかりやり遂げないといけない。というように、どこか気負って頑張っていないでしょうか。そして、思うようにできなかったり、失敗して落ち込むことはないでしょうか。イエス様に従っていこうと決心しても、試練にあい、自分の弱さに向き合うとき信仰が揺らぐ私たちです。ペテロや弟子たちと同じようにイエス様に従いたい。イエス様について行こうと決心しても揺らいでしまう弱い者なのです。

### 《2. 私たちの弱さを知っておられるイエス様》

イエス様について行きますと豪語したペテロに対してイエス様は「ペテロ。あなたは今日鶏が鳴くまでにあなたは三度私を知らないと言います。」といわれます。ペテロがこの後、どうなるかを知っていたのです。「しかし、わたしはあなたのために、あなたの信仰がなくならないように祈りました。ですから、あなたがたは立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりなさい。」イエス様はこのペテロが失敗したときにどんなにおこむだろう、と心配して下さっていたのです。イエス様は私たちの弱さを知っていてその弱さのゆえに私たちが再び神から離れて散ってしまっはいけなく信仰がなくならないように祈って下さいました。イエス様は自分の事よりも、周りの人たちのことを愛して心を配っておられる方です。十字架に架かってその痛みの極みに達しながらも、それでも父よ彼らをお赦しください。と彼らのために祈る方です。イエス様の愛の大きさはどれくらいのものなのかと思います。

### 《3. イエス様によって目的が与えられる ヨハネ21章》

そのあとペテロはイエス様を裏切りイエス様を三度知らないと言います。イエス様は十字架に架かって死んで三日目に復活の御業を成し遂げられたあと、弟子たちのところに現れて下さいました。一晩中

漁をしても魚が獲れなかった弟子たちに引き上げられないくらい的大量の魚をみせて奇跡を現わされました。それを見てペテロはイエス様だとわかりました。裸だったので上着を着て湖に飛び込みイエス様の所へ行きます。その時ペテロはイエス様から「私の子羊を飼いなさい。」と言われたのです。人間を取る漁師というペテロの人生の本当の目的を与えられたのです。ペテロはイエス様の一番弟子になる。イエス様が天に就いた時にはその次の権威をもつものになりたい。という人間的な欲がありました。しかし、人間的な欲が打ち砕かれた時、目的を見失うことをイエス様はご存知で、それでも声をかけてくださるのです。ペテロは失敗したことで、自分ももうイエス様の弟子になる資格はないと、落ち込みました。そんなペテロだからこそ、傷ついた人達、弱い人達を受け入れることができるそんな愛の人になっていきました。皆さんは失敗して落ち込んだ事はないでしょうか。人と比較してできない自分に落ち込んでしまう事はないでしょうか。イエス様は私たちの失敗を知っておられて私たちの信仰がなくなってしまうまいように祈って下さいました。ヨハネの福音書1:1に言葉は神であったと書いてあります。神である方が私たちのために祈られたのですから、その祈りは必ずかなえられます。だから私たちの信仰がなくなることはないのです。ヨハネの福音書の17章「私は彼らのためにお願いします。世のためではなく、あなたが私に下さった人たちのためにお願いします。」彼らはあなたのものですから。私がお願いすることはあなたが彼らをこの世から取り去ることではなく、悪い者から守って下さることです。」私たちが知らない所でイエス様が祈って下さっていることをおぼえていきたいと思います。

そして、もっとたくさんの傷を負った方はイエス・キリストです。鞭打たれ、傷つけられ、なじられて、捨てられた。誰よりも多くの苦しみを受けて。それでも、私たちのためにその道を嫌がることなく、自ら進んで行かれました。

私たちの心が痛むとき十字架に架かって私たちのために痛みを背負われた方のことを思い出したいのです。イザヤ書に「まことに彼は私たちの病を負い私たちの痛みを担った。それなのに、神は彼を罰せられ鞭打たれ、苦しめられたのだ。しかし、彼は私たちのそむきのために捧げ、私たちの咎のために砕かれたのだ。彼への懲らしめが私たちに平安をもたらした、彼のうち傷でわたしたちは癒された。イエス様が打たれたことによって私たちの痛みが癒され、イエス様の苦しみのゆえに私たちのどんな痛みも苦しみも癒されたのです。」

## ■よみがえったイエス様が新しい目的を与えてくださる

十字架はもともとは、ローマ帝国の時代の政治犯を処刑するために見せしめの意味もある処刑のやり方です。今は、病院、救急車などに掲げられる平和、救いの象徴となりました。私たちはイエス様に出会う前は”死”に向って行っていました。しかし、イエス様に出会ってからは永遠のいのちに生きるようになりました。イエス様と出会う前と後では全く逆の方向に向かわされています。イエス・キリストの人生を変えて、向きを変えて下さいました。本来向かうべき命への道へと向かわせて下さっています。自分で生きているようですが、そうではなくて、イエス・キリストがそのようにして下さっているのです。よみがえったイエス様が私たちに目的を与えて下さいました。ペテロは人との競争で自分の人生の目的をわからなくなっていました。イエス様は「私の子羊を飼いなさいと人生の目的を与えて下さいました。私たちにほもと、目的を与えられています。しかし、人との競争のとか神様からではないものに目を向けてしまいわからなくなっているのです。よみがえったイエス様は私たちの目の前で一人一人に本当の目的を与えて下さいます。イエス・キリストの声に耳を傾けて、その豊かな恵みの中にとどまっていきたいと思えます。

恵み豊かなイエス様。私たちの友となってく下さるイエス様こんな素晴らしい方だったらついて行きたい一緒にいたいと思うようになります。イエス様に従いたいと思うのはイエス様の恵みがそうさせるのです。そのように導いて下さった御業を成してく下さった主に感謝したいと思います。

(要約者:澤口 明子)

(2022年2月20日)